

# 歯から始める健康づくり。インプラント治療の最前線をご紹介します

2006年がいよいよスタート！今年も健康で充実した一年でありたいと願うのはみなさん同じだと思います。そこで、新春特集では健康と密接なつながりのある「歯」の医療をご紹介します。

なかでも、最近注目を浴びる「インプラント治療」の最新事情を、井上秀人歯科インプラント・クリニック院長の井上秀人先生にうかがいました。

インプラント治療を正しく理解し、歯のケアを通じて健康な一年をおくりましょう。



医療法人 井上秀人歯科  
院長 井上秀人 (いのうえ ひでと)  
昭和58年 井上秀人歯科医院開設  
平成10年 井上秀人歯科インプラント・クリニック開設  
平成11年 医療法人 井上秀人歯科設立

A.O.(オッセオインテグレーション学会)認定医  
I.C.O.I.(世界口腔インプラント学会)認定指導医  
D.G.Z.I.(ドイツ口腔インプラント学会)認定医  
AES(アメリカ平衡学会)正会員  
日本小児歯科学会認定医

●ホームページ/ <http://www.i-h-implant.com>

●40年にわたる臨床実績、進歩したインプラント治療

Q: 今、インプラント治療が進歩していると言われていますが、実際のどのような治療法なのでしょうか？

A: 世界中で様々なインプラント治療が行われています。その代表的なインプラントといえるチタン製ネジ構造の「プロネマルシステム」は、40年の臨床実績があり、すでに約300万人に700万本のインプラントが埋入されています。科学的な研究を重ね、骨とインプラントが細胞レベルで接合することが明らかになっています。インプラントの手術法や歯の作り方も研究が進み、現在は安心して治療が受けられる状況だと思えます。インプラント自体も5年ほど前からタイユナイトという革新的な凹凸構造が開発され、治療成績も格段と向上しています。タイユナイトは表面に小さな穴があいており、その穴の中に血液が入ることで、骨になるスピードが早くなると同時に、骨とインプラントの接合力も向上します。

●他の歯を削る必要がなく、残っている歯にもメリットがある

Q: インプラント治療も、一般的な治療法として浸透していますが、「ブリッジ」や「入れ歯」とどのような違いがあるのでしょうか？

A: 従来の歯科医療では、健全な歯を削ってブリッジの作成をしていました。しかし、ブリッジを作るために健全な歯を削ることはデメリットだと思えます。また、多くの歯が欠損している場合は、取り外し式の入れ歯を利用するのが一般的ですが、この場合、留め金がある歯に負担がかかります。その歯が数年で揺れてくる可能性があります。その歯を抜かなければならなくなつた場合、抜歯して新たに入れ歯を作らなければなりません。そうしているうちに、ほとんどの歯がなくなり、総入れ歯になるというのが、従来のパターンなのです。

●天然の歯と同じように使え、装着後のメンテナンスも簡単

Q: 治療後のメンテナンスは必要ですか？ また、定期的なメンテナンスも必要ですか？

A: インプラント治療後のメンテナンスは、通常の歯や歯ぐきのメンテナンスと変わりありません。歯周病に罹患している場合は、インプラント治療前に歯周病の治療はしなければなりません。治療後のメンテナンスは、まず自分で歯ぐきの周りの細菌が増加しないようきちんとして磨かなければなりません。ただ、インプラント周辺部分を太めのフロスなどの専用の清掃用具を使用して、歯科衛生士に3ヶ月に一度くらいは清掃してもらった方が安心です。ご自分で磨くことができる場合には、1年に一度のメンテナンスでも充分なケースもあります。

●噛み合わせが悪くても、インプラント治療は可能

Q: 顎(あご)のずれや、噛み合わせの問題がある場合、インプラントの治療はどのようなことになるのでしょうか？

A: 骨の中に埋入したインプラントが安定した後、噛み合わせの問題がない場合には歯を作成しますが、噛み合わせの問題がある場合には、二つの流れがあります。一つは、インプラントが骨についた後に歯の形を変えることにより顎の位置を修正する方法です。もう一つは、今までの位置で歯を作り、着脱できる装置で顎の位置と全身の姿勢を少しずつ変える方法です。顎の関節の症状や全身の症状がある場合には後者の方法が確実です。この方法は、頭や脊椎の姿勢を改善しながら、顎の位置を変えるためのトレーニングを3〜6ヶ月くらい行います。その後、顎の位置が安定してから本歯の歯を作ります。治療期間が少し長くなりますが、顎の位置が安定した方が噛みやすくなり、長い目でみれば望ましい治療法だと思えます。

●患者さんの話を聞く先生を選ぶのが大切

Q: 現在インプラント治療は高額と言われていますが、患者さんが後悔しないために、どのようなケアがあるのでしょうか？ また身体的にも悪影響があるのでしょうか？

A: 治療内容などの説明をきちんとしてくれる先生でないといけません。ただ、収入を上げることを優先する先生ですと、歯周病の治療をせずにインプラントの手術をしようとする場合があります。インプラントだけではなく、歯周病の治療や口の中全体の治療方針をきちんと提示してくれて、患者さんの希望などをしっかりと受けて止めてくれるような先生であれば間違いのないと思います。

●噛み合わせの改善で、表情が若返るケースも

Q: 先生は今までたくさん症例があると思いますが、治療前と治療後で患者さんの表情やライフスタイルなどどのように変化したのかご参考までにお聞かせ下さい。

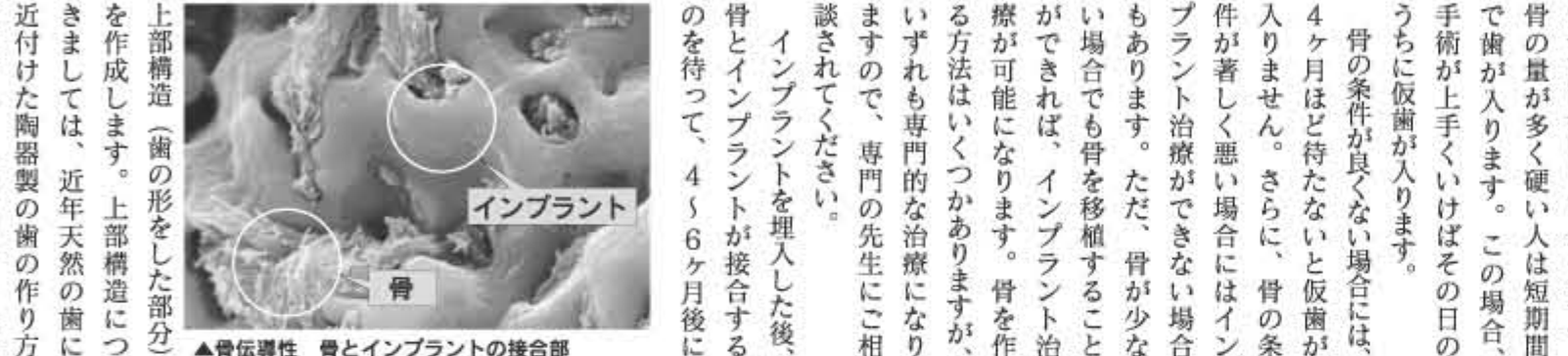
A: インプラントに限らず、方針をきちんと提示してくれて、患者さんの希望などをしっかりと受けて止めてくれるような先生であれば間違いのないと思います。

●インプラントの改良により、短期間で治療が出来るように

Q: インプラント治療をするにあたって患者さんの症状やニーズに応じて、治療方法や治療期間など違って来ると思いますが、どのような治療の流れになるのでしょうか？

●インプラントの改良により、短期間で治療が出来るように

Q: インプラント治療をするにあたって患者さんの症状やニーズに応じて、治療方法や治療期間など違って来ると思いますが、どのような治療の流れになるのでしょうか？



●歯を抜けたままに放置すると、あごのズレなどの心配が

Q: もし、失った歯をそのままにしておくと、周り歯にどのような影響があるのでしょうか？ また身体的にも悪影響があるのでしょうか？

●患者さんの話を聞く先生を選ぶのが大切

Q: 現在インプラント治療は高額と言われていますが、患者さんが後悔しないために、どのようなケアがあるのでしょうか？ また身体的にも悪影響があるのでしょうか？

●噛み合わせの改善で、表情が若返るケースも

Q: 先生は今までたくさん症例があると思いますが、治療前と治療後で患者さんの表情やライフスタイルなどどのように変化したのかご参考までにお聞かせ下さい。

ることに、笑顔が自然に出るようになります。顔のゆがみがとれると同時に顔の皮膚の張りも出ますので、少しシワが伸びます。つまり、様々な面で若返るといえるでしょう。80歳代でインプラント治療した女性が90歳を超えても、若々しくされている方も実際におられます。

## さまざまなケースに対応。インプラント治療臨床例。

症例解説A	症例解説B	症例解説C
<p>1. 初診時39歳の女性。顎のずれを自覚し来院。左下の奥歯が1本欠損しているため奥歯の噛み合わせの緊張がずれ、肩こりや頭痛などの症状もでていた。</p> <p>2. 治療前の左下の写真。欠損部分が狭く、ブリッジが装着されている。</p> <p>3. 顎の位置のずれを診断し、顎や骨の姿勢を調べた後、顎のずれを本来の位置に戻す治療を実施。顎の位置が本来の位置に戻った。本来の位置に戻った顎の位置の矯正治療の期間は約1年であった。</p> <p>4. 欠損部にインプラントを埋入してから、約3ヶ月後の土台を入れたところ、チタン製の土台をコンピュータ処理して作成している。</p> <p>5. 最終補綴物(被せもの歯)を装着したところ、コンピュータで形を臨みとったデータをスキャナーに送って作成したセラミック製の被せもの歯の高さも本来の高さを再現しているばかりではなく、審美的にも周囲の歯が修復された。</p> <p>6. 治療後のX線写真である。奥歯の高さが矯正になり、顎のずれもなくなっている。顎の動きもスムーズになり、顎関節の痛みもなくなった。顎や骨の姿勢も改善し、顔のゆがみがとれ、口の周りの皮膚の張りも増し、表情も明るくなった。</p>	<p>1. 初診時59歳の男性のX線写真。下顎の歯はほとんどなく、上顎の歯が欠けている。</p> <p>2. 初診時の写真。下顎の前歯が2本残っているが、ほとんど抜けかけている。上顎の前歯は歯周病に罹患し、歯ぐきからの出血があり歯は動揺している。</p> <p>3. インプラント手術直後の写真。上顎の前歯の治療を行い、約2ヶ月後に2本の歯の歯根と同様に5本のインプラントを埋入。下顎の前歯の部分は骨が硬いので、インプラント埋入と同時に歯根を作成した。写真は手術後、仮の歯を装着した時のものである。</p> <p>4. インプラントの埋入から約6ヶ月後に作成した歯の写真。上顎の歯周病の治療も上手くいき、歯ぐきからの出血もない。下顎には、5本のインプラントで本来あるべき14本の歯の形を再現。チタン製の歯根をネジ止めする方法で固定している。奥歯の部分でもしっかり噛むことができる。この方は、奥歯がなくて噛みやすくなっていて、奥歯の噛み合わせが良くなり、本来の高さを再現。このため、顎の力が減り、顎に負担がかかっていたのが、顎が楽になった。</p> <p>5. インプラント埋入後1年6ヶ月後のX線写真。下顎の前方部分の噛み歯に5本の長いインプラントが入っている。</p>	<p>1. 初診時39歳の女性。初診時39歳の男性。上顎の歯の先が上顎の空腔に付着しているため、顎の先の高さが上顎の空腔の内側へ広がって、上顎の歯が倒れている。歯肉が腫れており、この歯は抜いてみる。歯肉と歯が重なっていた。歯肉を出した後、きれいに歯ぐきをふき取った。</p> <p>2. 治療後の上の歯の写真。歯が抜けなければならない歯はブリッジの土台になっている。この歯を抜いた場合、入れ歯を作らなければならない。</p> <p>3. インプラント埋入手術時の写真。歯を抜いてから、1ヶ月後にインプラントの埋入手術を行った。抜いた歯の部分は骨が十分に埋まったので、インプラントを2本埋入。抜いた歯の部分は骨が十分に埋まったので、骨を作る材料を移植した。</p> <p>4. インプラント埋入から約1年3ヶ月後のX線写真。治療後、骨が埋まった部分に十分な骨が形成され、その後に埋入したインプラントも骨にしっかりと付いているのがわかる。</p> <p>5. 補綴(被せもの歯)を装着した後の写真。インプラントの埋入と得点から約1年3ヶ月経過している。インプラントは骨にしっかりと噛み合っている。噛み合っているため、本来あるべき歯の年齢と顔が若返り、見た目にも自然である。</p> <p>6. インプラント埋入から約3ヶ月後のX線写真。上顎歯肉に3本のインプラントが埋入されている。</p>

広告 企画制作 株式会社 西野毎日広告社